

治山事業に対する意識調査の結果について

富山営林署 藤塚 晃 平岡 唯一
橋元 義徳 若山 昭夫
胡桃坂克彦 長谷川明弘
下村 修身

1. はじめに

国有林は国の貴重な財産を国民の信託を受けて管理経営している。

この中で国有林のもつ多面的機能を高度に発揮させ、国民の付託に答えていかなければならない重大な使命がある。

このためには国有林と密接な関係にある地域社会と共に歩むために国有林が果たす役割について理解と協力を得なければならない。

そして地域が国有林に何を求めているかについても知る必要がある、そのためにはPRを兼ねて地域がどの程度、国有林を理解し求めているものは何かを何らかの方法で知ることが大切である。

このことから国有林に関係する11市町村を対象にアンケート調査を実施したのでその結果を報告する。

1. 調査の目的

地域社会の中で国有林や営林署、特に当署の事業の中でもウェイトが高い治山事業がどの程度理解されているか、そして何を求めているかを知って具体策を見出し、これに対応することである。

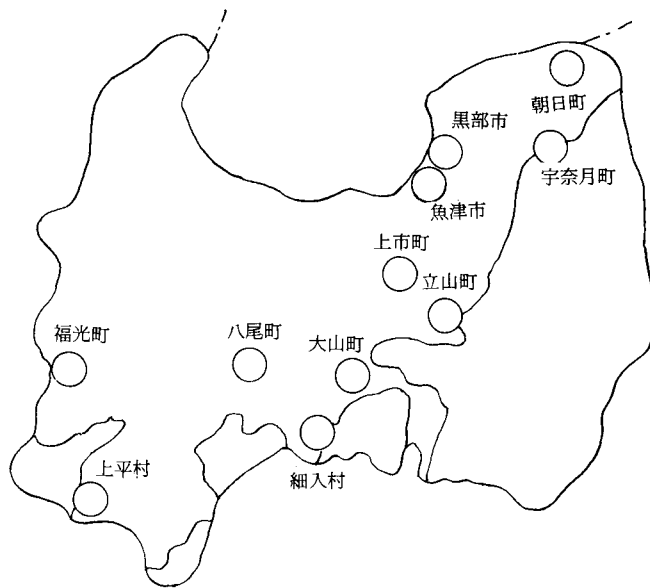
2. 調査の方法

(1) 調査方法はアンケート調査で行うこととし、次の方法とした。

標本調査とし、任意抽出法で選んだ。

(2) 母集団の範囲

富山営林署の中で国有林に関する市町村とし、選挙人名簿登録者数を対象とした。



第一表

選挙人名簿登録者数 S51. 9.10現在		
NO	市 町 村 名	人 数
1	朝 日 町	13,815名
2	宇 奈 月 町	5,574
3	黒 部 市	24,380
4	魚 津 市	34,389
5	上 市 町	17,429
6	立 山 町	19,926
7	大 山 町	7,989
8	細 入 村	2,089
9	八 尾 町	16,860
10	福 光 町	16,535
11	上 平 村	782
計		159,768

- (3) 選挙人名簿登録者数 159,768名内任意抽出法により第二表のとおり 600名を抽出した。
- (4) 調査時期は昭和52年1月

第二表

対象者数		
No.	市 町 村 名	人数
1	朝 日 町	52人
2	宇 奈 月 町	21
3	黒 部 市	92
4	魚 津 市	120
5	上 市 町	65
6	立 山 町	75
7	大 山 町	30
8	細 入 村	10
9	八 尾 町	63
10	福 光 町	62
11	上 平 村	10
計		600

3. 調査の項目

- (1) 往復はがきで対象者 600名をお願いした。
- (2) PRを兼ねて治山事業の目的等について説明し協力をねがった。

説明内容

富山県は山地の地形が急峻で降雨量、積雪量が多く集中豪雨や融雪による洪水や山崩れ、土石流などによる被害が発生しています。又、災害発生の危険地もあります。営林署の治山事業は「山地災害の防止」「森林による生活環境の向上」「水資源かん養」等のために行っています。

(3) アンケートの内容

- 1) あなたの職業をご記入下さい
- 2) 「国有林」又は「営林署」のあることや名前を知っていますか
知っている 知らない
- 3) 営林署で山くずれ防止や土砂止めえん堤（治山事業）の工事を行っていることを知っていますか。
知っている 知らない
- 4) 営林署の治山事業を知っている方はどうしたことでお知りになりましたか。
新聞、テレビ、市町村広報、学校教育、山へ行った時、その他。
- 5) 営林署の治山事業内容に関心がありますか。
ある ない

6) 河川のはんらんによる被災の経験をおもちですか。

もっている もっていない

7) 山くずれ、地すべり等の被災経験がありますか。

ある ない

8) こうした災害（洪水、山崩れなど）を防ぐ対策についてあなたのご意見は。

- (イ) えん堤工事を大がかりにやること。
- (ロ) 河川の堤防、護岸工事をもっとやること。
- (ハ) 山腹工（緑化を含む）をもっとやること。
- (ニ) 今のまゝのやり方がよい。
- (ホ) わからない。

4. 調査の結果

- (1) 標本回収数 256枚
- (2) 標本回収率 43%
- (3) 標本市町村別回収数 率

第三表

NO	市町村名	標本枚数	回収数	回収率
1	朝日町	52枚	20枚	39%
2	宇奈月町	21	10	48
3	黒部市	92	38	41
4	魚津市	120	44	37
5	上市町	65	36	55
6	立山町	75	24	32
7	大山町	30	11	37
8	細入村	10	6	60
9	八尾町	63	27	43
10	福光町	62	34	55
11	上平村	10	6	60
計		600	256	43

(4) アンケート集約方法

ア 知名度→営林署の治山事業をどの程度知っているか。

アンケート項目 2) 3) 4)をまとめる。

イ 関心度→治山事業の内容に関心があるか。

アンケート項目 5) をまとめる。

ウ 経験度→河川のはんらん、山くずれ、地すべり等の被災経験があるか。

アンケート項目 6) 7) をまとめる

エ 期待度→災害対策に対する意見は。

アンケート項目 8)をまとめる。

オ 理解度→ア、イ、エを総括して総合理解度とした。

(5) 期待度、関心度、知名度を各市町村別に表わしたものである

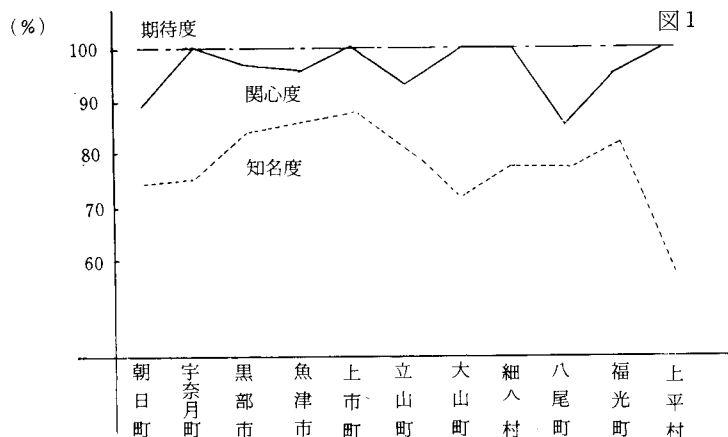


図1 から次のことが考えられる。

ア 各市町村とも知名度は低かったが期待度関心度は高かった。

イ 富山県の東部は西部から見て荒廃度高く、そのため災害発生頻度も高い。そして治山事業の重点地域であること又、日頃から地域との結び付きもあって期待度、関心度共に高いことを示している。

(2) 総合理解度

期待度、関心度、知名度を総合して総合理解度として各市町村別に表わしたものである。

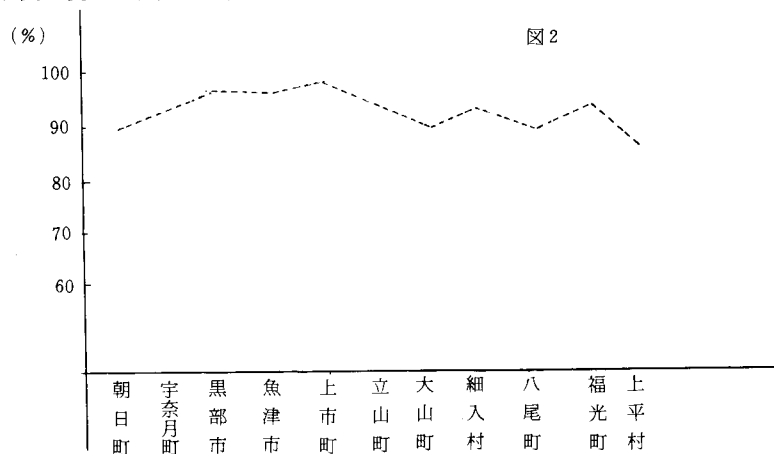


図2、から次のことが考えられる。

ア、理解度が当初予想したものより思いの外高い結果が出た。

イ、中でも荒廃頻度の高い河川、黒部川、片貝川、早月川流域にある。黒部市、魚津市、宇奈月町、上市町の市町村等が高い理解度を示しているのが特徴である。

(7) 災害経験と総理解度

災害経験と総理解度と比較したものである。

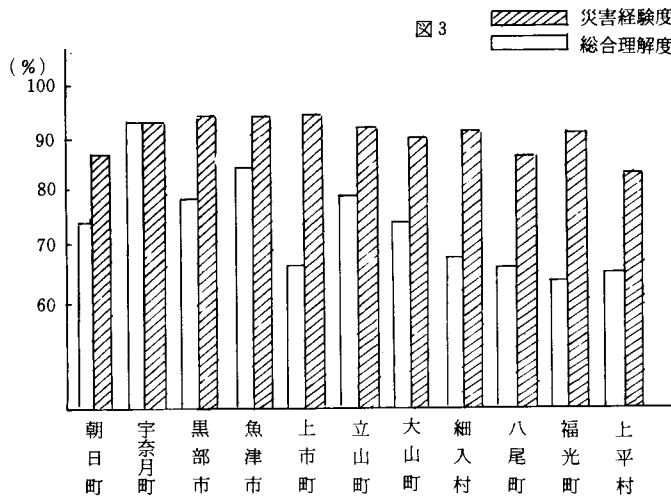


図3、から次のことが考えられる。

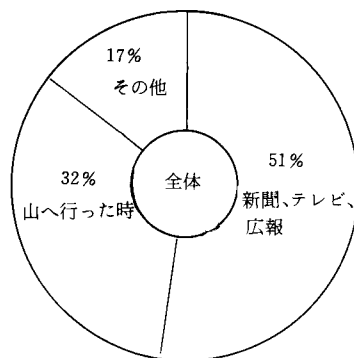
ア、東部では、直接災害経験度の高い所ほど総理解度が高い傾向にある。

イ、西部では、直接災害経験が少なくても新聞、テレビ、広報によってPRされるので理解度が高い傾向にある。

(8) 知名度

治山事業を何によって知ったか。

図4



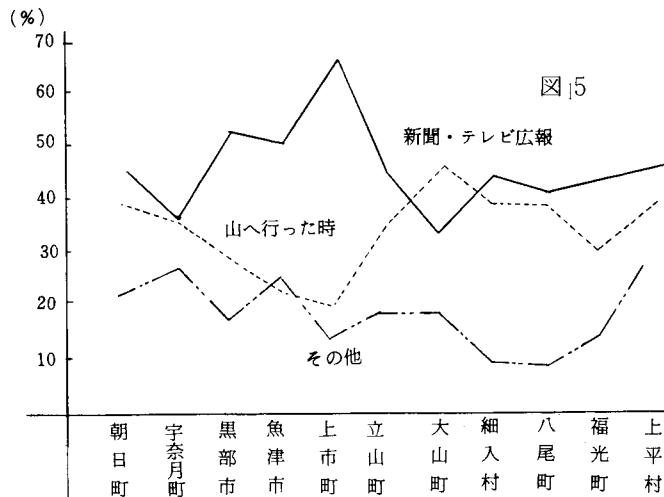


図4、5から次のことが考えられる。

- ア 今まで各地で新聞、テレビ等、報道関係でPRした所が高い傾向にある。
- イ 富山県は国立公園が多いという関係で山に密接な関係がある。又、国有林には、標識類が完備されていることから山に行った時に知ったと云う人が多かった。
- ウ その他で17%もあるのは内容として考えられるのはひとつには、仕事柄知っている。 知人より聞いたという人があった。

(9) 期 待 度

災害（洪水、山崩れ等）を防ぐ対策についての意見。

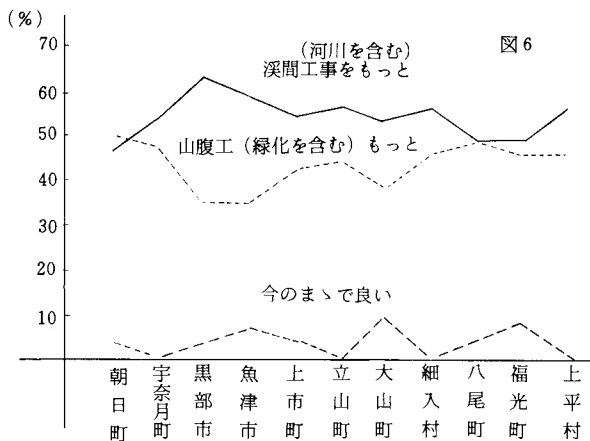
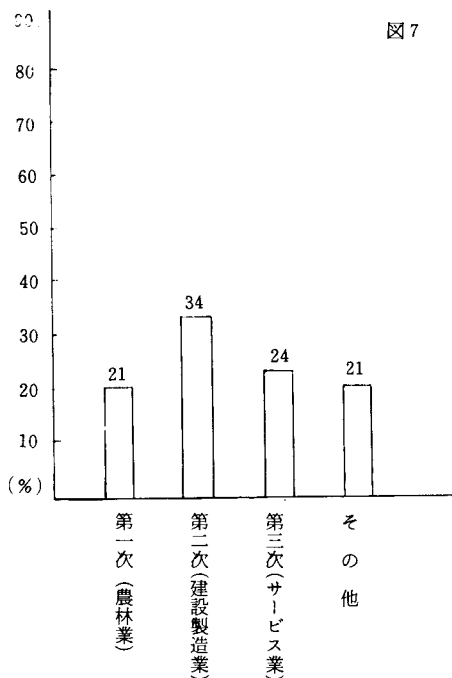


図6から次のことが考えられる。

- ア 全体としては、積極的に治山事業に対する要望が強い傾向にある。
- イ 国有林より下流の河川のはんらんが多いことから溪間工事を多く望んでいる。

ウ 朝日、八尾、福光地方が山地荒廃が多い所から山腹工（緑化を含む）を望んでいる傾向にある。

(10) 職業別調べ



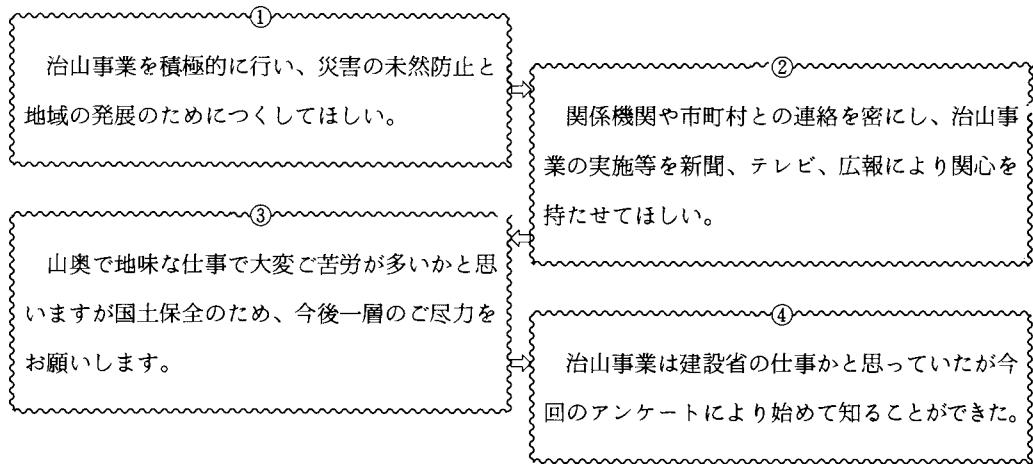
5. 今後の対応策

- (1) 知名度➡全般的に低い傾向にあるため、
 - ア 新聞等、報道機関の積極的な活用を図る。
 - イ 地元と積極的に対話を図る
- (2) 関心度➡従来治山事業を行っている地域は高いがその他の地域については、
 - ア 他事業との連携を取り、つながりを深める。
 - イ 治山事業の意義、目的、効果について理解してもらう必要がある。
- (3) 期待度➡調査結果から期待度が100%近く示していることから、
 - ア 治山事業計画立案に当り、地元の意見を聞く必要がある。
 - イ 積極的に治山事業を推進する。

地域の理解と協力を得るためには以上3点について積極的に取り組む必要がある。

6. その他

意見集約



以上が大きく分けた意見集約であります。中でも①が最も多く次に②～④の順でありました。

“おわりに”

今回の調査を実施した結果は十分な調査は出来ませんでした。今後、これを指標として精度の向上をめざして行かなければならないと考えられる。

皆様のご指導及びご批判をお願いします。